

とうほうの風

～ やさしい心 丈夫ながらだ みんな仲よく ひとりだち ～

令和7年(2025年) 7月1日 発行



「無くなったらどうなる“梅雨”と“水泳”」

～はじける笑顔の「プール指導」はじまる～

【園長：田川隆司】

6月とは思えない日差しが続いた日々でしたが、さあどんな7月になるのでしょうか。

園内施設への「安全」を度々見直す中、今まで課題としてはあがりながら、なかなか手がつけられなかったプールについて…。

歴史を振り返れば1975年に作られた旧プールは底がタイル張りで周囲はコンクリート造りの頑丈な造作物でした。私が就任してから毎年自力でタイルの補修を少しずつ行い、その都度目地も埋めていく作業を行ってまいりました。また、近くにある大きなクスノキからの落ち葉による樹液の付着や配水管の詰まりなど、度々トラブルに巻かれてきましたが、直近の理事会判断によりコルクチップを敷いた「憩いの広場」へ改築することとなりました。コロナ禍以前は西館屋上でプール指導を行っていた時期もあったようですが、強烈な暑さのため水温が上昇しすぎる欠点と熱中症指数の問題から旧プールの使用へと…。今年度はここへ屋上に保管していた「組み立て式プール」を設置し笑顔はじけるプール指導が始まっています。お隣の豊中市立桜塚小学校もプール問題（酷暑の水泳指導）は深刻なようで、今年度より市のモデル校として外部施設のスポーツクラブ：ルネサンス豊中へ行くとの情報がありました。学校のプール指導も中学校の部活動同様にどんどん変化していきますね。（体育館の空調設備工事も始まっている様子）



さて、今年も“酷暑”がやってきそうですが、この気象状況は“異常”なのか“変化”なのか…。いずれにしても「四季」を味わえるこの国の風情を表す言葉が使えなくなることはとても残念です。

例えば、あっという間に「梅雨明け」になったようですが、この「梅雨」という字、「つゆ」または「バイウ」（あえて「ひらがな」「カタカナ」に分けています）と読みますが、漢字は一緒に読み方が異なるのはなぜなんでしょう。保護者の皆さんも経験した学生時代に「国語」の授業が鬱陶（うとう）しかった方々には大変申し訳ありませんが、こんな些細なこと（疑問）に気づける“感性”をもった人間を育てることが、私が仕事をする上で絶えず指針としていたことでした…。

SNSというスゴいツールをきっかけに来日する外国人がどんどん増え、日本の文化に“触れて”“感じて”帰る人々が多い中、「漢字」「ひらがな」「カタカナ」を器用に使いこなす日本の文字文化に驚く人も少なくありません。そう、みなさんはこれら三種類の文字を巧みに使い分けて生活している素晴らしい「言語感覚」をお持ちなんですね。

では「梅雨」に話を戻せば、単語としての読み方はどちらでも間違いではありません。「つゆ」という読み方は訓読みで、「バイウ」という読み方は音読みということです。つまり、訓読みは文字以前か

らある日本古来のやまとことばで、聞いただけで意味が（だいたい）わかる読み方が基本です。対して音読みは“記す（しるす）”ための文字を使うきっかけが中国から伝わった漢字のため、中国の発音に基づいた意味のわからない読み方が多いのです。だからというわけではありませんが「梅雨明け（つゆあけ）」「梅雨前線（バイウゼンゼン）」と訓読み・音読みで一つの言葉として定着していますね。

さらに、日本では露（つゆ）や漬ゆ（つゆ）にみられる「露に濡れてしめっぽい」状態を表す表現や梅の実が熟して漬（つぶ）れる時期と、雨季で食べ物が腐りやすく、「減る、崩れる」などの状態を表す表現から「漬ゆ（つゆ・ついゆ）」が次第に変化していったと言われています。

対して中国では「黴（カビ）が生えやすい時期の“雨”」を「黴雨（バイウ）」と言い、後にイメージアップのために同じ発音の「梅」を使って「梅雨（メイユー）」と読んだのが日本に伝わったという説は、万葉集の時代から「梅」は日本人に愛されてきた清らかで風情ある言葉だからかもしれません。

国の文化庁は毎年、日本語の使い方の変化などを調べていて、2024年1月から3月にかけて全国の16歳以上6000人に調査し、3559人から回答を得ました。この中で、新しい意味や使い方が辞書に記載され始めた表現について「ほかの人が使うのが気になるか、ならないか」を聞いています。

その結果、『まつりする』と言うことには86%の人が、「ゆっくり、のんびりする」という意味で、そして、『がっつり食べよう』と言うことは85%の人が、「しっかり、たくさん食べよう」という意味で使うことに、それぞれ「気にならない」と答えているそうです。

このほか、「時間や手間をかけずに終わらせる」といった意味で『さくっと終わらせる』と言うことや「動物などがふんわりと柔らかそう」といった意味で『もふもふしている』と言うことは82%が、また、「ときめきを感じる」といった意味で、『きゅんきゅんする』と言うことは81%の人がそれぞれ「気にならない」と答え、こうした表現が日常広く定着してきていることがわかりました。

このように我が国における言語の変化は、文化庁が毎年見直しをしながら、公式な言語として認められるものか、言葉の“揺れ”として一時的な流行語かどうかの調査も行っています。最近地上波再放送で始まったNHKのドラマ「舟を編む」では、読者モデルから入社したけれども、担当雑誌が廃刊となり、全く異なる部署に配置転換された主人公：池田イライザさんが辞書を編集していくというあらたな仕事との出会いで、一つひとつの言葉の不思議な世界に引き込まれていく姿が絶妙に描かれています。この「舟を編む」はご存じの方もいるかもしれません、元々雑誌の連載から小説化され「本屋大賞」を受賞、映画化されると日本アカデミー賞をはじめ数々の賞を受賞。その後、アニメ化もされ、NHKでは別の主人公に光を当てて描かれています。（興味を持たれた方はどうぞ一読を）

世界は戦争を肯定化する大声の国が“言葉”を交わすことなく武力行使を正当化していく…。広島市の平和公園にある原爆慰靈碑に刻まれた「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」のことばは、訪れる人すべてに平和の意味を問いかけています。

人間という生き物は、「言葉」を使い「文字」という方法で「文化」を継承してきましたが、この言葉というコミュニケーションを蔑ろ（ないがしろ）にすると、原始的な“暴力”が先に出てしまい、互いに傷つけ合うことになってしまいます。何度も何度も経験しておきながら…。その根底には、幼児期にどのような「ことば」に触れて、どのような「感性」を育んでいくかどうかじゃないでしょうか。

東邦幼稚園でも子どもたちのトラブルは日常の出来事です。なぜ言葉で言えないのでしょうか。なぜ言葉を聞こうとしないのでしょうか。「親育ち」の一つとして考え直してみてください。

園長の【四方山話（よもやまばなし）】

【今年も言います！親のかかわり・その1：「子どもの通園と荷物」】

幼稚園の門前に立って交通整理やご挨拶をしていると、園児を送迎される方々はもちろん、通勤・通学を含めた多くの方々の姿をみることができます。皆さんと同じようにお子さんを自転車に乗せて急ぎ走り去る方。職場へ行かれるのか通勤として阪急豊中方面へ行かれる方。豊中高校や豊島高校の制服を着て通学する高校生。（朝の約一時間で200人ほどの通行があります）

4年目になると私の顔も覚えておられる方も増え、ご挨拶だけでなく、少し話かけてくださる方もおられます。とりわけ、桜塚小学校に登校する子どもたちの様子には微笑ましいものがあります。お姉ちゃんが妹の手をしっかりと握っている姿には感心します。同学年の子どもたちが“群れて”笑いとともにフラフラ通学する姿はよく見かけるものの、上級生がその下級生に注意したり、兄弟姉妹でもないのに手をつないであげていたりと様々な光景。スクールゾーンとは言いながらも結構車がまかり通る通学路ですが、道を歩く“マナー”や挨拶の仕方には、各ご家庭での言い聞かせなどを感じ取ることができます。

暑くなったこの時期、3歳の幼い園児が保護者とともに一生懸命に“歩く”姿は、時に頬もしく感じたり、時に危うく感じたり…。遠方から来られる方は、前後に乗せる「電動アシスト自転車（通称「電チャラリ」）」が主流になりましたね。来年からは法制化され今まで「軽車両」として見逃されてきた道路標識や一旦停止のルール。そして、スマホの「ながら運転」も確実に違反・罰金となり、いち早く「命を守る」対策としてヘルメット着用に踏み切られた方も増える一方、自転車を降りてから下駄箱に行くまででも保護者が園児の荷物を“すべて”持っておられる姿を見かけます。子どもは手ぶらで悠々と門をくぐるのを追いかけるお父さん…。歩いて登園する園児はほとんど自分の荷物は自分で持っている中で、自転車になってしまっているのか非常に残念でしかありません。

眠たい顔つきの子どもの手を引きながら、お仕事に向かわれるのにグズグズしているから“早く！”と急がれるお気持ちはわからないかもしれません。

しかし、保育園と異なり「幼稚園」というところは集団生活として子どもが初めて出会う「学校」です。自分の制服を正しく自分で着て、自分の荷物を自分で持つて通園する“自立”的第一歩なんです。我が子が可愛いのは当然です。しかし、“自らの持ち物”という意識を育て、自ら整理整頓していくことを“学ぶ”的が幼稚園なんです。（家族でのお出かけと異なるからこそ、自分の持ち物と他者との見分けのため、持ち物への「記名」が必ず必要な時期なんです。ディズニーへの旅でも、自らの荷物を自分でしっかりと持っている幼い子どもたちも沢山見かけるようになりました。）これからすぐ先に待っている「“自立”から“自律”へ」とつながる第一歩として自分の荷物は自分で持たせるようにしてください。

たとえ自転車置き場から玄関まででも…。

〔おしらせ〕

本日よりばら組フリーの先生として 稲井江季夏（いないえりか）が着任いたしましたのでお知らせいたします。

これからよろしくお願ひいたします。

